

# NEWS GOPE

インターネット・ニュースの見方

eye 1

## 日本のインターネット人口は1000万人を突破！ 1998年のインターネットを総括する

1998年もまもなく暮れようとしている。本誌でも、今年1年のインターネット業界の動向を総括し、来年のインターネットを展望してみることにしよう。

本誌編集長：中島由弘

ブラウザ戦争からサーバー戦争へ  
ネットスケープ社とマイクロソフト社の「ブラウザ戦争」と言われたWWWブラウザのバージョンアップ競争とシェア争いは沈静化した。特にネットスケープ社はブラウザのソースコードを公開し、ソフトウェア自身も無償での配布を始めた。ブラウザは名実ともにタダになったのだ。第2ラウンドはサーバービジネスへ移り、今後はコラボレーションのためのインフラストラクチャーをビジネスとして取り組む方向に動き出した。

### 急激に再編が進むプロバイダー

先月号のこのコーナーでも解説したが、今年後半に入りプロバイダーの再編が大きく進んだ。4月にベッコアメインターネットがアクセスポイントをテレウェイにアウトソーシングしたのを皮切りに、夏からは米国PSInet社がリムネット、東京インターネット、トウィックスの発行済み株式を買収した。本誌の付録であるプロバイダーの接続マップに古

くから名前を連ねている老舗プロバイダーが米国資本に吸収されていくという動きは、業界に大きなインパクトを与えた。そして99年にはさらに大きな再編の動きが予測されており、これはその序章に過ぎないのか。

### コミュニケーションの原点に戻る

#### 「ICQ」

電子メールやWWWブラウザという定番ソフトに加えて、ちょっと変わったソフトが登場し、人気を博した。「ICQ」である。自分の知人がダイヤルアップしているかどうかが一目でわかり、しかもちょっとしたメッセージならチャットのように送れる。マルチメディア化にはばかり目がいくなかで、コミュニケーションツールの原点に戻ったようなソフトウェアだった。

### 試行錯誤の続くビジネスモデル

インターネットは儲かるのか？これは昨年から言われてきた命題であるが、今年もイン

ターネットをビジネスとするためにさまざまなビジネスモデルが登場した。そのなかでもっとも大きなキーワードといえば「ポータルサイト」だろう。独自のコンテンツは作れないがアクセスの多いサイトが、自社のアクセス数を価値として、アクセスを求めるコンテンツプロバイダー（出版社・新聞社など）のコンテンツを集め始めたのだ。かつて「ブッシュ」といっていたモデルはすでに崩壊し、もはやブッシュという言葉すら聞かなくなってしまふほど変化は早い。そしてポータルサイトという言葉が登場して半年も経たないいま、すでにポータルという言葉は流行語ではなくなっている...のかも知れない。

### メディアとして定着した インターネット

米国ではクリントン大統領の不倫疑惑問題で揺れ、そのスター独立検察官のレポートが議会の手によってインターネットで公開されたり、証言ビデオがインターネットで流れたりした。既存のテレビなどのメディアよりも詳細に生のデータを流すものとしてインターネットが選ばれたのだ。

### 1000万人を超えた日本の インターネット利用者

98年の5月、日本のインターネット人口は1000万人を突破したと「インターネット白

書'98」(インプレス刊)によって報告された。その後も着実に利用者数は増加しており、平成不況と言われるなかで、インターネットの利用者は増え続けている。企業での導入が進んでいることは非常に大きな要因だが、簡単なメールツールである「ポケットボード」などもインターネット利用者を急増させるきっかけとなっている。すでにインターネットは特別な通信手段ではなくなっていることは間違いない。

### 金融機関がインターネットに取り組む

インターネットを使ったビジネスとして、これまではコンテンツビジネスばかりが注目され、一部インターネットを使ったカタログ通販があった。そして98年はずいぶん金融機関の証券会社がインターネットを使ったオンラインの株式投資のシステムを始めたり、銀行がオンラインでの振込みなどのサービスを開始した。マイクロソフトはそれとともに「マイクロソフトマネー」を発売し、いよいよインターネットでも「本物のお金」が流れ始める時代になったといってもいいだろう。

### インターネット・ニュースの見方

### ウィンドウズとマッキントッシュ、そしてLinux

今年マイクロソフトのウィンドウズ98が発売された。VPNなどの新機能もあったが、これが一般的に利用されるにはもう少し時間がかかる。一方、マッキントッシュはMacを発売し、話題となった。販売も好調であり、低迷したアップル社の救世主となった。そして、にわかに脚光を浴びたのはフリーのUNIXであるLinuxだった。インターネットのサーバーとして、安価に、そして安定した環境が構築できる。とくにRed Hat版には米国のインテルやネットスケープをはじめ、オラクルなどの基幹業務向けデータベースソフトウェアメーカーなども注目し、ウィンドウズNT(ウィンドウズ2000)との間でのサーバー戦争勃発の前夜である。

### インターネットガバナンスの行方

インターネットのドメインネームの管理権限をめくり、米国政府とインターネットコミ

ュニティーは対立した。グローバルなネットワークであるインターネット上でのルール作りはどの国が、また誰が主導的に行うのかということだ。米国政府はグリーンペーパーを発表し、米国政府が主導的な立場をとることを提案したが、世界的な議論も高まり結果としてインターネットコミュニティに譲歩した方向で調整された。この問題で注目を浴びたIANA(Internet Assigned Number Authority)のジョン・ポステル氏が10月に逝去した。

### そして、99年にインターネットは?

どうやら資本と開発力が勝負になりつつあるという印象を受けざるを得ない。インフラストラクチャーにしても、コンテンツにしても十分な経営資源が必要とされている。そして金融機関がインターネットを使った本格的ビジネスに乗り出すことで、ますますそうした色彩は強調されるだろう。しかし、インターネットは完成されたネットワークではない。アイデア一本で表舞台に立てるチャンスも多くある。おそらく99年のキーは、アイデアをいかにビジネスモデルに乗せるかということなのではないだろうか。

### Column 98年の大予測はどこまで現実となったか?

本誌の97年12月末発売号(2月号)で「98年インターネットはこうなる」という特集を掲載した。この記事はどこまで当たっていたのだろうか。

#### モビリティ

ノートパソコンの普及で、自由に移動できるコンピュータ環境が一般的になってきた。このノートパソコンを特定の場所に縛り付けていたのはイーサネットケーブルだった。IEEE802.11というワイヤレスLANの規格に期待したが、結果、十分普及するには至らず、いくつか登場した対応の機器も、個人で利用するにはまだ高価である。99年に期待だ。

#### インフラストラクチャー

ダイレクトインターネットやNTTサテライトコミュニケーションズの衛星インターネットがサービスインし、個人でも低速なダイヤルアップ回線だけが選択肢ではないと理解さ

れつつある。また、CATVを使ったインターネットも各地で本サービスが始まっている。

#### コンテンツ

マルチフィードとハウジングによりコンテンツの集中化は確かに促進された。もちろん莫大なアクセス数を持つメガサイトの話だが、しかしなかなか課金モデルはうまくいかない。インターネット広告も無条件にうまくいっているとはいえない。果たしてネットワークを使ったコンテンツの進む道は...

#### 課金・広告

プロファイリングはもう特別な手法ではなく、一般的な手法になりつつある。しかし、

集めたデータをどう使うか?利用者としては、お金の代わりにプロファイルデータを譲り渡したにもかかわらず、十分なメリットを享受できていない。

#### アプリケーション

JavaBeansやCOM+などの分散オブジェクト化を予測したが、WWWのインターフェイスでアプリケーションを構成する「ウェブアプリケーション」が定着しつつある。

#### プラットフォーム

ウィンドウズ98は予定どおりリリースされた。WebTVなどの家電製品でのインターネット利用は普及するに至らなかったが、日本のお家芸であるPDAなどのインターネット機能はあたりまえになった。また、家電製品へのネットワーク機能の組み込みの技術は新しいものが開発された。サン・マイクロシステムズ社のJiniは99年に期待の技術である。

## 第二の巨人がインターネットビジネスを活性化させる オラクルオープンワールド 1998 レポート

データベースベンダーの最大手オラクル社が自社のイベント「オラクルオープンワールド(OOW)」を11月9日から12日まで米サンフランシスコで開催した。同社ではすでにオラクル8iというインターネットに焦点を当てた次世代のデータベースを発表している。このイベントでは8iを中心とした、同社のインターネット戦略が相次いで発表された。今回は基調講演をもとにオラクルの戦略についてレポートする。

編集部



サンフランシスコ市内のモスコニーセンターで開催

### インターネットに照準を絞った戦略

初日はオラクル社COOレイモンド・レイン氏の基調講演で幕が開いた。

レイン氏は創造と改良についていくつかの例をあげ、インターネットがまさに改良の時期にあると述べた。そして、改良つまりインターネットをよりビジネスで活かすものにしていくことがオラクルに課せられた方向性であると今後の戦略について触れた。

また、オラクルがよりインターネットビジネスを活性化させるためにも、データベースやツールを提供するベンダーとしてだけではなく、2000年には顧客に対してソリューションを提供する会社へと変わっていくと明言し、単なるソフトウェアベンダーとして留まらないことを明らかにした。

### インターネットコンピューティングはコンピュータシステムの回帰

2日目には注目のオラクル社CEOラリー・エリソン氏の基調講演が行われた。



オラクルの戦略について語るレイモンド・レイン氏

講演は、「コンピュータシステムはサーバー側で集中管理をしていたメインフレームの時代から小規模なサーバーやデータベースが分散して処理を行うクライアントサーバーシステムに移り、現在ではインターネットコンピューティングの時代へとシステムが移行した」と、新しいコンピュータシステムの予兆から始まった。

企業ネットワークではすでにデータベースアプリケーションが必要不可欠なものとなっている。さらに、インターネットにつながることによって、このようなデータベースサーバーは専門知識を持った管理者が中央で集中管理するものになるという。なぜならサーバーを中央で管理すると、複雑なシステムを分散させずに労働コストを低くできるうえに情報も1つに統合でき、クライアントを選ばずにどこからでもアクセスできるからだとしている。

サーバーの中央管理というコンピュータシステムはメインフレーム時代への回帰のよう



「インターネットコンピューティングは非常にコストが低い」とラリー・エリソン氏

にも思える。ある意味では同意義であると考えられるが、ブラウザーのようなグラフィカルなユーザーインターフェイスやアプリケーションの開発などはメインフレームのそれとはまったく違うものである。

「5000店からなるファーストフードチェーンを考えた場合、クライアントサーバーシステムであれば、5000のアプリケーションサーバーに5000のデータベースが必要で、年間運用コストは5000万ドルになる。しかし、インターネットコンピューティングのアーキテクチャーにすれば、4つのアプリケーションサーバーに1つのデータベースがあればよく、年間の運用コストは1000万ドルで済んでしまう」とエリソン氏はいう。一度ネットワークが整備されてしまえば、システム構築でのネットワークインフラにかかるコストは急激に下がる。電子メールを導入するにしても、マイクロソフトのエクステンジを導入するには500ドルかかるが、同じマイクロソフトのHotMailのサービスを利用するのはただであると強調し、インターネットは非常な勢いでコンピュータシステムの価格を下げていると、新しい経済効果をインターネットに見出している。

### 世界初のインターネットデータベース「オラクル8i」

こうした戦略の中でオラクル8iが正式に発表された。オラクル8iはエリソン氏いわく「最初のインターネットデータベース」で、その理由として次のような機能を挙げている。

まず、これは最も特筆すべきことであるが、オラクル8iはJavaサーバーが組み込まれた最初のデータベースである。オラクル8i内に

JavaVMを持ち、データへのアクセスやアプリケーションはJavaで開発されることになる。JavaVMを内部に持つため、Javaでアプリケーションを開発しさえすれば、オラクル&i自身は何にでもなるとエリソン氏はいう。アプリケーション開発には同社のJディベロッパーが標準開発ツールとなる。

次に、iFS（インターネットファイルシステム）がある。この機能では、あるゆるすべてのデータがデータベース上で管理され、検索も可能となる。ここでいうデータとは、テーブルなどのいわゆるデータベースのデータに加え、マイクロソフトワードやパワーポイントといったファイルデータも指している。iFSでのデータの振る舞いもオラクル&i内で規定でき、振る舞いに応じてユーザーはデータを操作することになる。たとえば、エクセルファイルをデータベース内のどこに入れるかが規定されていたり、ユーザーによってアクセスできるファイルを決めることができる。これによって、ユーザーは複雑な操作を行わずに、データベースを有効に活用できるようになる。

### データベースベンダーからインターネットへの回答

また、オラクル&iの標準のインターフェイスとしてWebDBというHTTPサーバーが用意されている。ブラウザを使ってWebDBを介することにより、ユーザーはデータベース内のデータにアクセスできる。WebDBはHTTPサーバー機能のほかに、データのアクセス方法の定義やウェブページのレイアウト機能を持ち、SQLなどのプログラミングの知



展示場ではオラクル&i、WebDBなど新製品のデモンストレーションが行われていた

識がなくてもデータベースのフロントエンドを開発できる。エンドユーザーにとってはブラウザによる操作が標準であるとインターネットデータベースとしての理解がしやすい。このほかデータへのアクセス方法として、POP3、IMAP4、FTP、SMBなどありとあらゆる方法が考えられる。

オラクル&iのデモではSMBを使ってウィンドウズのファイル共有の形でオラクル&iをマウントし、この中にファイルをドラッグアンドドロップするものなどが見せられた。

このように、オラクル&iはウェブを代表とするインターネット上のアプリケーションから見たデータを保管するデータベースではなく、データを中心としたアプリケーションプラットフォームとしてのデータベースという位置付けになる。つまり、データベースベンダー側からのインターネットへの回答が「オラクル&i」なのである。

### 新しいビジネスモデルを作る 新サービス「ビジネスオンライン」

さらに、オラクル社は新しいサービスとしてビジネスオンラインというビジネスアプリケーションのアウトソーシングサービスを開始すると発表した。

ビジネスオンラインはオラクル&iやオラクルアプリケーションR11といったサーバー製品を使い、その上で稼動するビジネスアプリケーションをインターネットを通じてユーザー



話題のプラットフォーム「Linux」のパビリオンも展示場内にあった

に提供するサービスである。データベースやアプリケーション自体はオラクル社が管理する。ユーザーから見れば高価なサーバー製品の購入やアプリケーションの開発、面倒なサーバーの管理も一切不要で、ビジネスに必要なアプリケーションがインターネットを通じてブラウザだけを使って利用できるというメリットがある。

オラクル社ではこのビジネスオンラインをBtoBに特化したサービスとして提供する予定だ。サービス当初は、経理や人事管理などアウトソーシングしやすいアプリケーションを提供していき、最終的にはエレクトロニックコマースのバックボーンとして機能できるものにまで発展させていく。

ビジネスオンラインではVPDB（バーチャルプライベートデータベース）という考え方を提唱し、専任のデータベース管理者を置かず、高度なアプリケーションをアウトソーシングして外部でデータを管理したほうがコスト面で有利であるとしている。

エリソン氏によると「ビジネスオンラインは1999年1月からオラクルアプリケーションR11を使ったアプリケーションで1ユーザーあたり月額395ドルから895ドル、メッセージだけの利用ならば同じく月額10ドルぐらいを予定している。また、同年6月からはパートナーのアプリケーションも提供する計画だ」としている。

このほかイベント会期中にはサン・マイクロシステムズのスコット・マクネリー会長をはじめ、インテル、ヒューレット・パカード、コンパックの会長、上級副社長が基調講演を行い、オラクルとの強力なパートナーシップについて語った。

また、展示場でもオラクル社やパートナー各社によるさまざまなデモンストレーションが催された。

オラクル&iを中心として、世界第2位のソフトウェア会社が今大きくインターネットに動き出し、インターネットビジネスを変えていくような勢いを感じさせる4日間であった。

## ネットセンター日本語版、インフォシークチャンネル発表 本格的に動き始めた日本のポータルサイト

本誌11月号で「ポータルサイト」を特集してから約2か月、いよいよ日本でも各社が本格的なポータルサイト化へ向けて動き始めたようだ。ネットスクープの「ネットセンター」日本語版が公開され、「インフォシーク」と「エキサイト」がそれぞれ新コンテンツを発表した。このような動きによって日本でも米国並みのサービスが実現するのか。各サイトの強化ポイントに迫る。

編集部



日本語版ネットセンター  
URL <http://home.jp.netscape.com/ja/>

日本のポータルサイトでも登場したことに注目したい。インフォシーク・チャンネルのコミュニティは各ジャンルに興味のあるユーザーが趣味に応じたアイテムを売買したり交換したりする「場」になるとのこと。

さらに今回のリニューアルには、先のロイター・ジャパンをはじめ、毎日新聞、東芝、デジタルアドバンテージなど、22社がコンテンツプロバイダーとして提携を発表している。自社でコンテンツを作らずに優れたコンテンツを集め、「メディア」として機能する米国ポータルサイトの仕組みをここでも採用しているわけだ。

### 日本での成功を左右する 「オートパーソナライズ」

ブラウザとの統合を売りにするネットセンター、コミュニティを前面に打ち出したインフォシーク、これらの戦略が米国同様に日本でも成功するかに興味が集まる。そして、ポータルサイトに必須のもう1つの機能「パーソナライズ」を強化するのがエキサイトだ。すでにある「マイエキサイト」とは違って、ユーザーが情報を登録することなしに自動的に趣味を判断し、パーソナライズされたトップページを表示する。このサービスは11月下旬にスタートすること。一説によると日本人は自分で情報を入力して画面をパーソナライズすることをあまり好まないらしい。もし、このことが事実ならば、エキサイトの戦略が功を奏する可能性は高い。

98年の後半に日本のポータルサイトは本格始動した。そして、これから注目したいのは「ユーザーに何を提供したところが成功するか」に尽きるだろう。

### 「パートナー」と「新ブラウザ」 をアピールする日本語版ネットセンター

10月20日、日本語版ネットスクープネットセンターが公開された。同日の記者発表会ではエキサイト、フレッシュアイ、goo、インフォシーク、ライコス・ジャパンの5つの検索サイトが提携を発表。これにより、ネットセンターから直接各サイトの検索機能を利用できるようになる。各社の代表に今回の提携の狙いを聞いたところ、「ヤフーに対抗するためにはこのような提携が重要」とヤフー包囲網をにおわす発言もあった。また、広告セールスのパートナーとして「電通」が提携を発表。収益の要となる広告営業にも力を入れる。

11月現在、コンテンツは会社が提供する検索機能のほかに、日本語版インボックスダイレクトとエキサイト提供のディレクトリーとそれほど多くはない。米国版でおなじみのカスタマイズ機能「マイネットスケー



インフォシーク・チャンネルのデモ画面  
URL <http://www.infoseek.co.jp/>

プ」や無料の「ネットスクープウェブメール」などはない。日本法人のウェブマネジャーである斎藤茂樹氏は「日本でのニーズをリサーチしたうえで要望の高いものは用意したい」と今後の対応を語った。

続く11月8日には「コミュニケーター4.5日本語版」を発表。関連サイトを自動表示する「What's Related」やURLの代わりにキーワードで目当てのサイトに行ける「インターネットキーワード」を日本語化することで、日本語版ネットセンターをより効果的に利用できるとアピールした。

### 「ディレクトリー」と「コミュニティ」 を新たに加えたインフォシーク

11月10日に発表されたインフォシークの新コンテンツは単なるサイトへのナビゲーションではなく、「コミュニティ」としての機能を持つ。11月24日に公開予定の「インフォシーク・チャンネル」には「コンピュータ」、「インターネット」、「スポーツ」、「オフィスライフ」など、6つのチャンネルが用意される。これらのチャンネルには各ジャンルの関連サイトへのリンクのほかに、ロイター・ジャパンなどが提供する「ニュース」、ユーザー同士が情報交換をする「コミュニティ」、検索結果を地図上に表示する「マップサービス」、各ジャンルの用語や関連する施設を検索できる「データベース検索」などが含まれる。

なかでも、米国のポータルサイトでは欠かせない要素となっているコミュニティが

## より家電に近づいた小型オールインワンサーバー インタージェットが作る 新しいインターネットサーバー

サーバーの立ち上げや管理をしようとする、管理者の確保やメンテナンスなどのコストがかかる。誰にでも設定できる簡単なものがあればこんなに楽だろうか。ホイッスル社のインタージェットはこれを実現した最初の製品である。今回はこの製品について同社のマーケティング担当副社長のゴードン・リッター氏に話を聞いた。編集部

### 安定稼働する「家電」を目指す

家電のように操作が簡単で安定して稼働すること。これが現在のインターネットサーバーに求められている要望の1つである。

「インタージェット」はDNSサーバーや電子メールサーバー、WWWサーバーなどインターネットに必要なサーバーをワンパッケージで提供し、しかも簡単な操作で設定できることを謳っている。同種のサーバーとしてコバルトネットワークス社（以下コバルト）のコバルトキューブがあるが、リッター氏は次の点でまったく異なるという。

「コバルトの製品は確かに値段が安いのですが、ルーター機能もなければファイアーウォール機能もない。彼らはオールインワンと言いつつゲートウェイの機能も用意していません。我々の製品はゲートウェイ機能を提供し、ISPのインターネット接続サービスとして統合化することを目指しています。また、インタージェットは完全に家電のように安定して稼働する装置として提供しています。ベースになっているOSはUNIXなので、ユーザーがカスタマイズできそうなのですが、メンテナンスの面から



サイズも小さい「インタージェット」

一切許していません。逆にコバルトの製品はユーザーが自由にカスタマイズしてもいいとしています。しかしこの場合、故障や不具合が生じたとしても、どこまでがユーザーの責任でどこからがメーカーの責任かが明確にされません」

このように機能や安定性といった面で、インタージェットは優位にあるとしている。

一定の品質を提供できる製品であれば、ネットワークサービスを提供するISPのような企業が注目するのは当然のことである。ホイッスル社はすでにNTTやATT、ドイツテレコム、フランステレコムといった会社をビジネスパートナーとしている。このような企業にしてみれば、彼らのネットワークの末端に、非常に頑強な製品を置いてほしいという願いもあるのだろう。

### 運用の簡略化が信頼性を向上させる

さらに、サーバーとしての信頼性についてリッター氏は次のように語っている。

「製品の中に自動バックアップ機能が入っていて、ユーザー情報やシステム情報を自動的にほかのコンピュータに保存するようになっています。こうしておけば、もしインタージェットに故障が起きても、インタージェット自体を新しいものに取り替えて保存しておいたデータを戻すだけで以前の状態に戻せます。また、現在システムとしてホイッスルウェア3.1というソフトウェアが入っています。将来、ホイッスルウェア



ホイッスル社の設立メンバーでもあるゴードン・リッター氏

3.2をウェブページからダウンロードしてアップグレードできます。しかも、3.2にバグがあった場合に、3.1に戻せるような仕組みを持っています。つまり安定した稼働がもっとも重要だと考えているのです」

サーバー自体の信頼性が家電程度のものであれば、バックアップ機能は最低限必要なものとなる。マシン自体の信頼性よりも、信頼性を向上させるための運用のあり方がこの製品の大きなポイントと言えそうだ。

### 重要なイントラネットでの利用

ほかにもインタージェットはユーザーが触れる部分が少ないために、セキュリティを強化し、なおかつ運用を楽にするような配慮がなされている。

現在、中小企業向けのインターネット接続サービスは、こういったサーバーを管理しなくてもいいようにホスティングサービスとパッケージ化して販売される傾向にある。このサービスを利用すれば、自社内にサーバーを置かずに管理をアウトソーシングできるというメリットがある。しかし、インタージェットはセットアップだけでなく運用も含めた簡易性を売りにしており、50万円程度という値段を考えれば、インターネットサーバーの管理を自社内で行うほうが安上がりになる。しかも、イントラネットでの利用も考えれば、ファイアーウォールからVPNまで提供されるこのマシンを使う価値は十分にあるだろう。

インタージェットの国内での販売は、現在NTTがOCNエコノミーサービス用に自社ブランドとして提供しているほか、リコーが取り扱っている。

## 情報通信分野の新製品や新システムが集合 COM JAPAN 1998 開催

「明日よりも速く、21世紀がやってきた」というテーマのもと、「COM JAPAN 1998」が11月10日から13日まで東京・有明の東京ビッグサイトで開催された。情報通信分野のあらゆるユーザーを対象にして、通信業界の将来性や可能性を具体的に提言している。このイベントに先駆けて発表されたコンシューマー向け製品などが一堂に会するとあって、会場は熱気に包まれた。

編集部



「COM JAPAN 1998」会場内

ムを出展した。ここ数年で急速に発展した移動体通信サービスのデータ転送部分に着目し、あらゆる人が「いつでも、どこでも」使えるコミュニケーションシステムの実現を目指している。NTTでは、5ギガヘルツ帯イーサネット無線LANの標準規格に採用されるOFDM（直交周波数多重）を利用した、無線LAN試作機による高速伝送のデモンストレーションを行った。情報伝送速度は20Mbps。試作機は親機と子機が同じ大きさのボックスで、そこからPCカードインターフェイスを出してノートパソコンに接続。将来的には子機をPCMCIAカード大にする予定だという。さらに、25ギガヘルツ帯ATMワイアレスアクセスシステム（AWA）を出展。現行のPHS基地局と同じ範囲にアンテナを設置して、どこにいても高速で高品質なATM伝送方式を利用できる。ATM基幹ネットワークを利用するため、街中を光ケーブルが巡る2002年のサービス開始を目指す。

アステルでは、PHSのインフラを使った非対称ワイアレスアクセスシステム（AWS）を紹介。PHSから基地局に連絡して、希望した情報収集にはAWSダウンロード基地局を利用して情報端末に約10Mbpsでダウンロードできる。

全体的にモバイル色が強くなっているがこのほかCT分野でも顧客情報データベースとLAN、電話を連動させたソリューションやVoice over IPサービスなどが展示された。ビジネスそして個人向けにもより便利な「ツール」が出揃った。21世紀に向け、情報通信分野からますます目が離せない。

### 集客抜群の移動通信電話

会場では会期前に発表されたばかりの新製品、A5やB5サイズのサブノートPCが人気を博したが、移動通信電話のブースも負けてはいない。11月1日より試行サービスを開始したイリジウムの端末がDDIグループや京セラで展示されていた。実際には試用できないものの、機器を手にとるとその大きさを体感。また、すでに関西地区で利用されているcdmaOneの体験コーナーがDDI/IDOブースに設置され、順番待ちの列ができるほど。さらに、ノキアから赤外線ポートを搭載した携帯電話が登場。パソコンやPDA、同じ電話機間でデータ転送ができる。さらに日本初のアクティブスライドを採用して電話がかかってくるまでスライドを開くだけで通話ができるようになっている。

### 開発中のインターネット接続端末

シャープやNTTですでに発売されているウェブの閲覧、電子メール、電話、FAXが一体型になった多機能情報端末を、松下電器産業が参考出展した。この「インターメイトED-18」は、シートフィードタイプのプリンター一体型で、スキャナー機能やコピー機

能、FAXの送受信も紙ベースで行える。アナログ回線用だが、オプションで用意されるPCMCIAカードを使えば、LANやCATV回線にも接続できる。すでに法人向けには出荷しているが、個人向け製品の販売は未定。

セルラー電話、IDO、DDIポケットはインターネットやイントラネットに接続できるブラウザ機能を搭載した端末（99年4月発売予定）がショーケースに入って展示された。パソコンやPDAがなくても手軽に多様なサービスを受けられ、想定しているコンテンツは、ニュースや天気予報、渋滞情報など。誰もがインターネットを利用できる環境がさらに広がってきた。

また、東芝では開発中のMPEG-4映像符号化を用いた携帯型テレビ電話「MPEG PHONE」を参考出展した。白い流線形の本体中央にディスプレイが付き、受話器は薄型PHSを想定。PHSも本体に合わせてしずくをかたどったような形で、一風変わった雰囲気を出していた。

### 無線を利用した最新技術

マルチメディア移動アクセス（MMAC）推進協議会では、現在開発中の新システ



松下電器産業の「インターメイトED-18」



ブラウザ機能を搭載した携帯電話/セルラーホン



東芝が参考出品した「MPEG PHONE」

## Product ついに日本でもサービス開始 TV機能が搭載されたWebTV Plus

米国ではすでにサービスが開始されているWebTV Plusが12月1日からついに日本でも開始される。このサービスは、今までのWebTV機能にテレビ映像の受信機能が加わったものである。インターネットとテレビ映像の組み合わせは、今後のテレビ放送のあり方を変える可能性を持っている。

編集部

WebTV PlusのサービスにはTV受信機能が付いた専用の端末が必要になる。この端末を使った新たな機能は次の4つ。

「TVホーム」はWebTVサービスの入り口となる画面で、中央に表示されるテレビ映像の番組情報を提供する。また、「お気に入り」に登録した複数のチャンネルを同時に一画面に表示する機能や、事前に登録した番組の情報を通知してくれる「お知らせ」機能がある。

「番組表示機能」は一週間先までのテレビ番組の情報を提供するサービス。番組名やジャンルによる検索もできる。

「ピクチャー・イン・ピクチャー」はテレビ番組情報や「おすすめ」を見ながら、ま

たチャットをしながら、同時に子画面でテレビ番組を見る機能。

「インタラクティブTVリンク」はテレビ番組とその番組のウェブサイトを直接リンクして、インターネット上の情報に簡単にアクセスできる機能。専用STBは、インタラクティブTVリンクに対応した番組を受信すると、番組放送中に小さな「i」マークを画面上に表示してインタラクティブTVリンク対応の番組であることを知らせる。この機能によって、番組を見ながら、番組内容と連動したアンケートなどが可能となる。

今後は地上波だけでなく、ケーブルテレビやBS、CS放送にも対応する予定。また、データ放送との融合も考えられている。

専用端末は12月1日から松下電器産業より販売され、標準価格は55,000円。また、サービスも同日から開始され、利用料金は1か月15時間まで2000円、15時間を超える利用は1分間につき5円を予定している。

テレビコンテンツとインターネットの融合は、今後のテレビ放送に大きな影響を与えられ、伸び悩んでいると伝えられるWebTVサービスの加入者数が、この新サービスによって増加するかが焦点だろう。



番組表示機能の画面。選択した番組の情報とともにテレビ映像が表示される

## Product 実用化が進む次世代マークアップ言語 インフォテリアがXML製品計画を発表

これからのインターネット上では、制限の多いHTMLに代わり、拡張性に富み、OSやアプリケーションに依存せずに利用できるXMLが、文書やデータの交換のために幅広く使われるだろうという期待が高まっている。こうした中で日本国内初のXML専門ソフトウェア会社として設立されたインフォテリアは、この11月に各種のXML製品計画を発表した。

編集部

インフォテリアは、XML専門ソフトウェア会社として98年9月に設立された。今回同社が計画を発表した製品は、次のようにサーバーソフト、編集ソフト、プログラム用部品の3種類からなる。官庁や企業間におけるXMLを使ったデータ交換のための環境を提供するものだ。

XML Server for Domino  
ロータスノーツドミノに蓄積されたデータをXML形式で交換するためのサーバーソフト。ウィンドウズNTまたはSun Solaris

に対応している。同社では、ウェブ上での電子データ交換(EDI)の普及を加速させるものになるとしている。99年第1四半期にリリースされる見込み。

XML Authoring Editor  
XMLデータをDTD(文書型定義)やXSL(XML形式のスタイルシート言語)と同時に編集できるエディターソフト。これまでの開発者向けのツールとは異なり、ユーザーはXMLの言語仕様を意識することなくデータを編集できる。また、日本語の文

字コードにも完全に対応している。リリースは99年初頭になる見込み。

iPeX (Infoteria Processing Engine for XML)  
XMLデータの読み込みや編集のプログラムエンジン。XML処理機能をソフトウェアに組み込みたい企業に、OCX(Visual Basic用コントロール)やプログラムのライブラリーの形でOEM提供する。年内リリース予定。

WWWの標準化団体W3Cでは、98年2月にXML 1.0の仕様が正式勧告として公開されたのを手始めとして、XML Namespace、XSL、XPointer、XLinkなどのXML関連技術の標準化が進められている。インフォテリアは99年を「XML元年」と位置付け、XMLの実用化のための製品を充実させていくとしている。

## Product NECが Atermブランドの新TA 3シリーズを発売

日本電気は11月9日、Atermの新製品を3シリーズ(5機種)同時に発表した。本体前面と背面に2つのUSBを搭載した「Aterm IT75/D」(DSU内蔵/42,800円)は背面側をデスクトップPCに接続し、前面側を携帯用のノートPCに利用する。前面に接続したPCは、背面USBに接続したPCとのファイル共有やプリンター共有もできる。また、前面にUSBポートがなく、アナログポートを2つにした廉価版「Aterm IT60/D」(DSU内蔵/35,800円)も発売。この2機種には「でかけるボタン」が本体上部にあり、このボタンを押すと不在時にかかってきた電話をあらかじめ設定した外出先に転送したり、ポケベルに通知したりする。この場合、転送する電話を識別着信で指定できる。また、Atermとしては初め

でのダイヤルアップルーター機能を持ったマルチユースTA「Aterm IR450/D」(DSU内蔵/54,800円)も発売。バックライト液晶ディスプレイを搭載し、USBポートを1つと10BASE-Tポート4つを内蔵。USBポートはパソコンにLANボードがなくてもLAN接続とみなし、10BASE-Tポートと同様に利用できる。

URL <http://aterm.cplaza.ne.jp/>



Aterm IT75 (左) と Aterm IR450 (右)。それぞれDSUのないモデルは34,800円と46,800円

## Product NECが ダイヤルアップルーターの 新製品を発売

日本電気は、家庭向けダイヤルアップルーターの新製品「COMSTARZ ROUTER CMZ-RT-DS」を10月30日に発売した。アナログポートを2系統で2個ずつブランチにした計4個を装備した。ハブは本体背面に4ポート持ち、前面には一時的に接続するために使えるサービスポートが1つ用意されている(しかしハブ機能は全部で4つ)。S/T点は2つ。さらにバックライト付きの液晶ディスプレイを搭載し、ナンバーディスプレイに対応している。

URL <http://ccsd.biglobe.ne.jp/comstarz/>



本体寸法は約W220×D200×H60(mm)。価格は49,800円

## Product アライドテレシスが 低価格ダイヤルアップ ルーターを発売

アライドテレシスは、DSU内蔵の低価格ダイヤルアップルーター「CentreCOM AR100」を11月7日に発売した。10BASE-Tポート4つ、アナログポートとS/T点をそれぞれ2つ装備。事前に指定した通信費を超えると外部への通信を制限する「課金リミット機能」やメール着信チェック、アナログ端末接続機能(内線通話など)を持つほか、フレックスホンやNSボイスワープなどのNTTの各種サービス、PIAFSにも対応。価格は39,800円。

URL <http://www.allied-tesisis.co.jp/>



本体寸法はW206×D148×H30(mm)

## Product カシオが 10円メールに対応した 携帯情報ツールを発売

カシオ計算機は、PIM(個人情報管理)機能のほか、パソコン上のテキストやマイクロソフトエクセルのデータを簡単にコピーできるPC連携機能を搭載したペン入力タイプの携帯情報ツール「カレイドXM-750」を発売した。オプションのモデム(16,000円)や携帯電話アダプター(22,000円)を使えば、10円メールやニフティサーブ、BIGLOBE、PC-VANを利用した電子メールの送信もできる。価格は38,000円。

URL <http://www.casio.co.jp/productnews/xm-750.html>



4Mバイトのフラッシュメモリー搭載

## Product NTTが インターネットのできる ISDN対応電話機を発売

日本電信電話は、ウェブページの閲覧や電子メールの送受信、留守番電話、FAX、スケジュールなどの機能を装備したISDN対応デジタル電話機「マルチメディアホンテレセ(telesse)」を発売した。8インチのカラー液晶ディスプレイで画面にタッチするだけの簡単操作。電子メールは4つまでのメールアドレスに対応しているため、家族で分けて利用できる。アナログポートを1つ搭載。価格は80,000円(工事費別途)。

URL <http://pr.info.ntt.co.jp/news/news98/9810/981029b.html>



DSUは内蔵せず、最大64Kbpsで通信できる

**ベイ・ネットワークスが  
NETGEARブランドで  
プリントサーバーを発売**

ベイ・ネットワークスは、SOHO向けネットワーク機器群「NETGEAR」に、プリントサーバー「PSシリーズ」を追加、発売した。パラレルポートを1つと10BASE-Tポートを4つ装備した「PS104」(32,800円)とパラレルポート2つと10/100Mbps対応のイーサネットポート1つを装備した「PS110」(42,800円)の2機種。共にTCP/IP、IPX/SPX、NetBEUI対応。本体寸法はW189×D122×H21(mm)。

URL <http://www.baynetworks.com/japan/>



上がPS104、下がPS110

**メルコが  
低価格10M/100M  
スイッチングハブを発売**

メルコは、10Mbpsと100MbpsのLANが混在した環境を実現する10M/100M対応スイッチングハブ「LSW10/100-8」を発売した。セグメントの分割でデータ伝送の効率化やパフォーマンスの向上を図っている。ポート数は8個で、通常、定価で15万円から20万円くらいするスイッチングハブが39,800円と、中小規模のオフィスでも簡単に導入できる。ネットワーク診断ツール「Net Seeker」は無償でダウンロードできる。

URL <http://www.melcoinc.co.jp/>



本体寸法はW250×D130×H25(mm)

**アクトンテクノロジーが  
スケルトンのUSBハブを  
発売**

アクトンテクノロジーは、プラスチックなどの樹脂素材を使用した製品ライン「Jucy」シリーズの第1弾として、4ポートUSBハブ「Jucy USB Quad Hub」を11月4日に発表した。4つのダウンストリームポートはUSB搭載機器やほかのハブに、1つのアップストリームポートはPCやワークステーションに接続できる。ケースの色はコーンイエロー、ソフトバイオレット、スモークグレーの3色で、価格は13,800円。

URL <http://www.accton.co.jp/>



本体寸法はW120×D97×H31(mm)

**理経がプロキシ機能と  
DHCPサーバー機能を持つ  
ネットワーク機器を販売**

理経は、英国リングデール社が開発したネットワーク機器「Proxy Router & DHCP Server」の販売を開始した。この製品は、1台でプロキシ機能とDHCPサーバー機能を持つ。IPアドレスの自動割り当てを行うことで、1つのPアドレスで最大252台の端末でインターネットに接続することを可能にするもの。ウィンドウズNTなどのサーバーマシンは必要なく、設定は付属の専用ソフトを使用する。価格は60,000円。

URL <http://www.rikei.co.jp/>



インターフェイスは10BASE-T (RJ45)

**日商エレクトロニクスが  
インターネットに特化した  
サーバーを販売**

日商エレクトロニクスは、インターネットに特化したサーバー「Cobalt RaQ-Jマイクロサーバ(日本語版)」の販売を開始した。OSにはLinux 2.0を使用し、WWWサーバー、FTPサーバー、メールサーバーなど、サーバー構築に必要なソフトはすべてプリインストールされている。また、メモリーが16Mバイトから64Mバイト、ハードディスクが2.5Gバイトから10.2Gバイトまで3タイプの機種がある。価格は278,000円から。

URL <http://www.pc-net.nissho-ele.co.jp/>

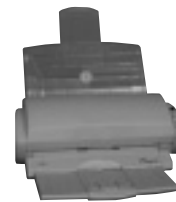


本体寸法はW432×D318×H45(mm)

**PFUが  
ウェブ文書管理ソフト  
付属のスキナーを発売**

PFUは、スキナーで読み込んだ文書を直接ウェブで管理するイントラネットソリューションを提案し、ソフトとカラーイメージスキャナーのセット「Pragma」を発売した。スキナーはオートドキュメントフィーダー(ADF両面)形式。スキャンボタンで文書を読み取り、FTP機能でそのままウェブページに登録できる。ウィンドウズNT 4.0とIIS 2.0のサーバー環境などパーソナルウェブサーバーで動作。価格は148,000円。

URL <http://www.pfu.co.jp/sales/pragma/>



名刺大からA4レターサイズまで対応

**Product** キヤノンが  
A3対応のカラーレーザー  
プリンターを発売

キヤノンはA3対応のカラーレーザープリンター「LBP-2160」を発売した。フルカラー毎分6枚(A4ヨコ)モノクロ毎分24枚(A4ヨコ)の高速印刷と2400dpi相当×600dpiの高解像度出力、自動両面印刷機能(オプション)などが特徴。また、オプションで、IPX/SPX、TCP/IP、AppleTalk(EtherTalk)のマルチプロトコルに対応した100BASE-TX対応のプリントサーバーが用意されている。価格は648,000円。

URL <http://www.canon-sales.co.jp/>



本体寸法はW566×D685×H754(mm)

**Product** デジタルアーツが  
スピード2のボーナス  
パックを発売

デジタルアーツは、インターネット加速ユーティリティ「スピード2」にインターネットの接続時間と通信料金を管理するソフト「Net Timer」をセットした「スピード2ボーナスキャンペーンパック」を12月4日に発売する。スピード2は、見たいホームページのリンク先を事前に読み込み、WWWブラウザに表示する速度を最大40倍速までに速められる。2本合計で11,600円のところを7,800円で限定販売(3,333本)。

URL <http://www.daj.co.jp/>



ウィンドウズ95/98/NT4.0用

**Product** オムロンソフトウェアが  
英語読み書き支援ツール  
を発売

オムロンソフトウェアは、英語のホームページや電子メールなどをワンタッチで辞書引きできる英語読み書き支援ツール「English Navigator」を発売した。おもな特徴として、辞書を引きたい単語をマウスカーソルでなぞるだけで必要な意味と例文を表示する「ピンポイント辞書引き」、スペルが思い出せない単語を“\*”と組み合わせただけで、該当する単語を表示してくれる「あいまい検索」、メールソフトに英単語を入力中にスペルの間違いがあれば、その場で間違いを指摘して正しい候補を表示してくれる「リアルタイムスペルチェック」などの機能がある。ウィンドウズ95/98/NT4.0対応で14,800円。

URL <http://www.omronsoft.co.jp/>

**Product** マクロメディアが  
XMLに対応したウェブ  
オーサリングツールを発表

マクロメディアは、専門的なウェブオーサリング環境を提供できる新製品「Dreamweaver 2」を発表した。HTML編集機能の強化のほか、XMLにも初めて対応。このため、電子商取引やデータベース、出版物、高画像を求めるコンテンツなどに対応できるよう配慮されている。新たにサイト管理機能が追加され、ウェブサイト構成される各ページをツリー状に表示してわかりやすくした。また、グローバル検索機能で、実行しているウェブサイト内でテキストやHTML全体、タグなどを検索、置換できる。このほか、数人が共同でウェブサイト構築できる「Dream Template」というテンプレート機能を装備。ウィンドウズ95、98、NT4.0およびMAC OS7.5.5以降のOSで稼働する。

URL <http://www.macromedia.com/jp/>

**Product** ネットワークアソシエイツが  
セキュリティー評価ツール  
を発表

ネットワークアソシエイツは、500以上の脆弱点をスキャンできるネットワーク評価ツール「CyberCop Scanner ver.2.5」を発表した。ネットワーク上でハッカーによる攻撃をシミュレートして、ネットワーク管理者がセキュリティーの脆弱点を事前に発見できる。さらに、自動アップデート機能で、NAI Labで新たに発見されたセキュリティー関連の情報をウェブを利用して自動的にチェックする機能も搭載し、常時最新の状態を確保できる。また、ウィンドウズNT環境のセキュリティー全体を評価するための170以上のチェック項目を持つウィンドウズNT新監査機能などの機能も強化された。価格は1ノードで6,100円から。

URL <http://www.nai.com/japan/prelease/981022cop.asp>

**Product** マイクロソフトが  
「マネー」で電子明細の  
取り込みサービスを開始

マイクロソフトは、個人向け資産管理ソフト「Microsoft Money」(マネー:オープン価格)に金融機関の取引明細をダウンロードできる「Microsoft Money 電子明細」サービスを開始した。これにより金融機関での取引を、データを入力せずに「マネー」に取り込めるようになる。なお、対応金融機関は野村證券(10月29日より)と住友銀行(11月24日より)で、NTTデータの「ANSER-WEB」も金融機関向けに対応の予定。

URL <http://www.microsoft.com/japan/products/money/>



ダウンロードした明細はマネーに取り込める

### Product メガソフトが 自分だけの音楽CDを 作れるソフトを発売

メガソフトは、自分だけの音楽CDを編集・製作できる「ミュージックCDデザイナー」を発売した。このソフトは、1つのパッケージで「音楽録音」、「編集・加工」、「CD作成」、「CDレーベルやジャケットの製作」という4つの機能を持っており、デジタルサウンドやCD-Rに関する知識がなくても簡単に音楽CDが製作できる。ウィンドウズ95/98対応で9,800円。CD-Rドライブは別途購入する必要がある。

URL <http://www.megasoft.co.jp/>



音楽CDだけでなくCDレーベルも作れる

### Product 人気テレビ番組 「世界ふしぎ発見!」のアド ベンチャーゲームが誕生

東京放送(TBS)日立製作所、テレビマシオンユニオンの3社は、TBS系で放送中の人気テレビ番組「世界ふしぎ発見!」から発想したパソコン用ソフト『世界ふしぎ発見! トロイア MYSTERY ADVENTURE 1186 B.C.』を発売した。紀元前12世紀のトロイアが舞台の3Dアドベンチャーゲームと、トロイアの歴史が学べる資料集の2部構成。ウィンドウズ95/98対応で8,800円。

問い合わせ デジタル平凡社  
TEL 03-5721-1051



豊富な資料と現地取材をもとに構成された資料集

### Service DDIポケットが プロバイダー不要の電子 メールサービスを開始

DDIポケット電話グループ9社は、PメールDX(1000文字通信)をより高度化するセンター設備(PメールDXセンター)を設置した。これにより、プロバイダーに加入せずにPメールDX対応端末だけで電子メールの送受信ができる「メールサービス」を12月1日から開始する予定。PメールDX対応端末からの操作でPメールDXセンターにメールアドレスの登録ができ、利用者個別のメールボックスが開設される。プロバイダーへの加入がいらず、さらにパソコンを持たなくても、誰でも簡単にインターネットメールが利用できる。料金は距離や時間にかかわらず30秒10円で、対応文字数は約1000字。メールボックス容量は1利用者あたり1Mバイト。

URL <http://www.j-plaza.or.jp/ddi-pocket/>

### Service イリジウムがグローバルな 衛星携帯電話の 試験サービスを開始

日本イリジウムは、世界初のグローバル衛星携帯電話サービスの提供に向け、この11月1日より試験サービスを開始した。衛星携帯電話としての一定の通話品質を達成した一方で通話試験がさらに必要という判断から、まずは試験サービスという形になった。試験サービスは、イリジウムの衛星ネットワークを使った「サテライトサービス」とイリジウムとローミング契約を締結している海外の地上携帯電話ネットワークにローミングして通話する「ワールドローミングサービス」とで展開される。料金は、京セラ製シングルモード携帯電話、端末契約事務手数料10,000円と通話料金のみ(月額基本料金は無料)。対象数は2000で期間は12月31日まで。

URL <http://www.iridium.co.jp/>

### Service ICOが2000年に向け 衛星通信電話サービス 提供を準備

米ICO Global Communications社(通称ICO/アイコ:日本法人は日本衛星電話)は、2000年のサービス開始に向け、衛星通信電話事業の研究実験を開始した。中軌道(地球から10,000km)周回衛星を利用し、わずか10個の衛星を使って地球全体をカバー。音声、データのほか留守番電話や会議通話などの付加機能も提供する予定で、データ通信はメールの送受信程度の2400bpsになる。携帯端末は数社の日本のメーカーが出資しているため、実用化試験サービスを開始したイリジウムに比べて端末は小さく、重さは半分程度。KDD内にICO日本法人があり、KDDが約半分を出資し、NTTドコモ、IDO、日本テレコムなどが名を連ねる。

URL <http://www.spj.co.jp/>

### Service 参加費無料の ショッピングモールと メールサービスがスタート

アプリネットは、無料でメールマガジンやメールマガジンを発行できるメールフォーラム「ココデ・メール」と、無料で出店できるショッピングモール「ココデ・モール」をスタートさせた。ココデ・モールは、3商品までなら無料で、4商品目からは、1商品あたり月額1000円の費用がかかる。どちらのサービスも、WWWブラウザから簡単に登録できるのが特徴。

URL <http://mail.cocode.ne.jp/>(ココデ・メール)

URL <http://mail.cocode.ne.jp/>(ココデ・モール)



商品で検索ができるようになっている「ココデ・モール」

### Service インプレスが「インフォネクスト」向け情報配信サービスを開始

インプレスは、漢字表示式「インフォネクスト」に向けて、インターネットやパソコン関連の最新情報を配信するサービス「インプレスウォッチ・チャンネル」を11月2日から開始した。NTTドコモの「情報配信サービス」のネットワークを利用して、インプレスがウェブやメールで配信しているデジタルニュースコンテンツ「INTERNET Watch」、「PC Watch」、「窓の杜」から、各種の情報をポケットベルに表示する。祝日を除いた月曜日から金曜日の毎日、サービス開始当初は1日50件程度を配信する。東京エリアでの提供になり、ポケットベル契約のほかインプレスとの「情報受信契約」（情報受信加入料3,000円、情報料月額500円）が必要。

URL <http://www.impress.co.jp/>

### Contest CATVインターネット普及に向け、インターネットホームページコンテストを開催

地域マルチメディア・ハイウェイ実験協議会は、99年5月頃に予定しているCATVインターネットの全国一斉デモンストレーション「CATVインターネット・フェスタ'99」など協議会の会員などが各地で行うCATVインターネット実験に使用するホームページを募集している。テーマは、CATVインターネットの「高速性」、「常時接続性」、「低廉性」などのメリットを十分生かし、新しいインターネットの活用を提案するもの。応募作品はオリジナルであればジャンルは問わない。賞金は、グランプリ(1点)が郵政大臣賞および協議会会長賞として副賞50万円のほか、優秀賞(2点/副賞20万円)入賞(若干/副賞10万円)応募期限は、99年2月10日。

URL <http://www.catv-inet.or.jp/>

### Company アプライドがSOHO向けシステム構築事業に参入

九州・中国地方でパソコン量販店を展開するアプライドは、SOHOなど、従業員100人以下の中小規模事業所向けのシステム構築事業に参入すると発表した。台湾メーカーのアサステックの製造技術を基に、サーバーやパソコンは自社工場のアプライドファクトリーで組み立てるほか、委託生産を活用して大手メーカーの製品よりコストを抑える。また、個別に企業への訪問をしない代わりに各地の量販店に専用コーナーを開設し、サーバーとパソコン4台を接続した仮想オフィスを設置して実演販売を始める。システムの価格は大手メーカーの約半額とし、サーバーとパソコン10台のシステムで約200万円。初年度12億円の販売を見込んでいる。

URL <http://www.applied-net.co.jp/>

### Campaign アコシスが2周年記念のキャンペーンを実施

インターネット決済システムのアコシスが、実用化2周年を記念してキャンペーンを実施。入会希望者を紹介したアコシス会員は、もれなく3,000円クーポンがもらえる(入会者は1,000円のクーポンがもらえる)ほか、抽選で1名にアコシスクーポン10万円分をプレゼント(12月31日入会申し込みまで)。また、利用者謝恩プレゼントとして、12月末までにアコシスを100円以上利用するかまたは入会した人に抽選でVAIOノートPCG-C1(1名)ドリームキャスト(5名)5,000円のアコシスクーポン(20名)をプレゼントする。共にアコシスのウェブページから入会申し込みをした人が対象。詳しくはアコシスのウェブページを参照のこと。

URL <http://www.acosis.com/campaign/>

### Contest シャープがザウルス向けソフトの開発コンテストを開催

シャープは、ザウルス向けアプリケーションソフト「MOREソフト」の開発コンテストを開催する。応募期間は98年11月1日から99年2月15日まで。仕事に役立つソフトからゲームソフトまで、ジャンルを問わず広く募集し、応募作品の中から、最優秀賞1点(50万円)優秀賞2点(30万円)次点5点(ザウルスカラーポケット「MI-310」1台)を選出する。結果は3月上旬にシャープのホームページ上で発表する。

URL <http://www.sharp.co.jp/sc/excite/more/>



上記URLから開発ツール SZAB 体験版がダウンロードできる

### Event 「WebComputing」をテーマにNEC Express World'98を開催

日経BP社とNECが主催する「NEC ExpressWorld'98」が、12月2日から4日まで(午前10:00から午後5:00)東京ビッグサイトで開催される。入場料は1,000円。「Touch The WebComputing」をテーマに、NECの最新のビジョンからテクノロジーまでを体験できる。NECゾーンでは、世界最大級のExpress5800シリーズなどによるウィンドウズNTミッションクリティカルシステムを公開する。

URL <http://bpwww2.nikkeibp.co.jp/EXP0/nec98/>



会場での最新情報やカンファレンスの情報などが見られる

Event イベントカレンダー (1998年12月~1999年2月)

※カレンダーの日程はあくまでも予定です。お出かけの際は、問い合わせ先へお確かめください。

国内

開始日	終了日	名称	概要	開催場所	主催・問い合わせ先
12月2日	12月2日	RealNetworks Conference/Tokyo'98 URL <a href="http://www.jp.real.com/conference/">http://www.jp.real.com/conference/</a>	米国メディアにおけるインターネットビジネスの最新動向やインターネット活用事例、業界著名人による講演を通じて日本におけるインターネットメディアの可能性を知る展示会。	東京国際フォーラムホールC 東京都千代田区大手町1-9-5	主 関 RealNetworks Conference/ Tokyo'98事務局 Tel. 03-5351-8261 Fax. 03-5371-9315
12月2日	12月3日	データビジョン'98 URL <a href="http://www.videor.co.jp/">http://www.videor.co.jp/</a>	ビデオリサーチのプライベートショー。デジタル多チャンネル時代に向けての視聴率測定システムの紹介のほか、研究発表セミナー、開発機器の展示など。	有楽町東京交通会館12階 東京都千代田区有楽町2-10-1 ※特別会場：東京国際フォーラムホールD	主 ビデオリサーチ 関 DataVision'98事務局 Tel. 03-5541-6120 Fax 03-5541-6442
12月2日	12月4日	C&Cユーザーフォーラム1998 URL <a href="http://www.nua.or.jp/">http://www.nua.or.jp/</a>	情報システム構築にかかわる総合的な情報の発信・交換を行うイベント。「NEC Express World'98」同時開催。	東京ビッグサイト (東京国際展示場) 東京都江東区有明3-21-1	主 NUA (NEC C&Cシステムユーザー会)、 NEC 関 NEC C&Cユーザーフォーラム1998 事務局 Tel. 03-3434-5600
12月2日	12月4日	国際画像機器展 URL <a href="http://tokyoweb.or.jp/oe/gazoten/">http://tokyoweb.or.jp/oe/gazoten/</a>	光源や計測用機器、画像処理機器、ディスプレイ装置、画像記憶/記録装置など一連の画像機器に関する総合展示会。	パシフィコ横浜 神奈川県横浜市西区みなとみらい1-1	主 日本画像・計測機器協議会 関 精機通信社 Tel. 03-3367-0571 Fax 03-3368-1519
12月15日	12月18日	Internet Week 98 URL <a href="http://www.nic.ad.jp/iw98/">http://www.nic.ad.jp/iw98/</a>	インターネットにかかわる技術の研究や開発、構築、運用、利用する人々が一堂に会して、インターネットに関する各種会合を集中して開催するイベント。	国立京都国際会館 京都府京都市左京区宝ヶ池	主 関 Internet Week 98実行委員会 (JPNIC内) E-mail iw98@nic.ad.jp
12月16日	12月17日	Oracle Open World 1998 URL <a href="http://www.oracle.co.jp/ooow/exhibitor/">http://www.oracle.co.jp/ooow/exhibitor/</a>	日本オラクルのプライベートショー。	東京ビッグサイト (東京国際展示場) 東京都江東区有明3-21-1	主 関 日本オラクル Oracle OpenWorld 1998運営事務局 E-mail oow@jp.oracle.com
2月3日	2月5日	NET & COM '99 URL <a href="http://www2.nikkeibp.co.jp/event/netcom/">http://www2.nikkeibp.co.jp/event/netcom/</a>	インターネットテクノロジーによる企業情報システムとネットワークについてのフォーラムや展示会。	日本コンベンションセンター (幕張メッセ) 千葉県千葉市美浜区中瀬2-1	主 日経BP社 関 日経BP社 事業部 エキスポ事務局 Tel. 03-5210-8408 Fax 03-5210-8285
2月3日	2月5日	PAGE 99 URL <a href="http://www.jagat.or.jp/JAGAT/PAGE/">http://www.jagat.or.jp/JAGAT/PAGE/</a>	デジタルパブリッシングの総合技術展。グラフィックコミュニケーションにかかわるビジネスの最新動向やソリューションを探るカンファレンス、セミナー、展示会。	池袋サンシャインシティ 東京都豊島区東池袋3-1-1	主 (社)日本印刷技術協会 関 PAGE 99事務局 Tel. 03-3384-3112 Fax 03-3384-3116
2月4日	2月5日	分散システム/インターネット運用技術シンポジウム'99 URL <a href="http://www.ipsj.or.jp/">http://www.ipsj.or.jp/</a>	インターネットやLANの運用管理、ネットワークの高速化・高性能化、次世代通信、分散処理システム構築などのあらゆる技術に関するシンポジウム。	大阪市立大学 学術情報総合センター 大阪府大阪市住吉区杉本3-3-138	主 情報処理学会 分散システム/ インターネット運用技術研究会 関 (社)情報処理学会 シンポジウム係 Tel. 03-5484-3535 Fax 03-5484-3534
2月18日	2月20日	MACWORLD Expo/Tokyo '99 URL <a href="http://www.idgexpo.com/">http://www.idgexpo.com/</a>	マッキントッシュ関連の総合展示会。	日本コンベンションセンター (幕張メッセ) 千葉県千葉市美浜区中瀬2-1	主 IDG ワールドエキスポジャパン、日本工業 新聞社、ニッポン放送、産経新聞社、フジ テレビジョン、毎日コミュニケーションズ 関 IDG ワールドエキスポジャパン Tel. 03-5276-3751 Fax 03-5276-3752

海外

開始日	終了日	名称	概要	開催場所	主催・問い合わせ先
12月2日	12月4日	Digital Content Creation URL <a href="http://www.dccexpo.com/">http://www.dccexpo.com/</a>	デジタルコンテンツの制作に関する展示会とセミナー。	Los Angeles Convention Center Los Angeles, CA, USA	関 Advanstar Communications Digital Media Group Tel. +1-714-513-8400 Fax. +1-714-513-8612
12月8日	12月10日	COMDEX/Enterprise New York '98 URL <a href="http://www.comdexenterprise.com/NY/">http://www.comdexenterprise.com/NY/</a>	プロフェッショナル向けのインターネットテクノロジーに関する展示会、カンファレンス。	Jacob K. Javits Convention Center New York, NY, USA	関 ソフトバンクフォーラム Tel. 03-5642-8433
12月8日	12月10日	Java Business Expo URL <a href="http://www.javaexpo.zdevents.com/">http://www.javaexpo.zdevents.com/</a>	企業向けのJavaテクノロジーソリューションに焦点を当てた展示会とチュートリアル、カンファレンス。COMDEX/Enterprise New York '98併催。	Jacob K. Javits Convention Center New York, NY, USA	関 ソフトバンクフォーラム Tel. 03-5642-8433
12月8日	12月9日	Digital News Forum URL <a href="http://www.jup.com/events/forums/news/">http://www.jup.com/events/forums/news/</a>	ウェブでのニュース配信に関するカンファレンス。	Atlanta Convention Center Atlanta, GA, USA	関 Jupiter Communications Tel. +1-212-780-6060 Fax. +1-212-780-6075
1月4日	1月8日	MACWORLD Expo 1999 URL <a href="http://www.macworldexpo.com/mw99/">http://www.macworldexpo.com/mw99/</a>	マッキントッシュ関連の総合展示会。	Moscone Convention Center San Francisco, CA, USA	関 IDG Expo Management Company Tel. +1-781-551-9800 Fax. +1-781-440-0300
1月7日	1月10日	1999 International Consumer Electronics Showcase (CES) URL <a href="http://www.cesweb.org/newsite/">http://www.cesweb.org/newsite/</a>	電化製品や情報家電など、電気機器に関する総合展示会。	Las Vegas Convention Center Las Vegas, NV, USA	関 CES General Info Tel. +1-703-907-7605 Fax. +1-703-907-7602
1月17日	1月21日	The 1999 RSA Data Security Conference & Expo URL <a href="http://www.rsa.com/conf99/home.html">http://www.rsa.com/conf99/home.html</a>	暗号、セキュリティ技術に関するカンファレンスと展示会。	McEnery Convention Center San Jose, CA, USA	関 RSA Data Security Tel. +1-650-295-7600 Fax. +1-650-295-7700
2月3日	2月5日	Internet World Canada '99 URL <a href="http://events.internet.com/canada99/">http://events.internet.com/canada99/</a>	インターネットの総合展示会。	Metro Toronto Convention Centre Toronto, Canada	関 Mecklermedia Tel. +1-203-226-6967 Fax. +1-203-454-5840

## 【インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ】 ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社**インプレスR&D**

All-in-One INTERNET magazine 編集部

[im-info@impress.co.jp](mailto:im-info@impress.co.jp)